

# 今、この人に **Interview**

外国人児童生徒指導協力員

奥山 ルジミラ マリ さん

どんな活動も“子育て”をキーワードに、外国人、日本人関係なく大好きな子どもたちのために、無理なく楽しく活動しています。



■2005年の当協会発行の外国人向け情報紙「みみタロウ」では、和太鼓を通じた地元の方との交流について紹介させていただきました。それから20年ほど経ち、奥山さんの地域での活動はどのように変化しましたか？

私には子どもが4人いて、子どもが小学校の時に通っていた学校の校長先生とのつながりから、2007年に、ある小学校でブラジル人の子どもの言語のサポートを依頼されたことがきっかけとなり、その時から外国人児童生徒指導協力員をしています。湖西地域にある学校を中心に、滋賀県内の小中学校に通うブラジル人の生徒たちの支援をしてきました。現在は、週に2回行っています。

■外国人児童生徒指導協力員とは具体的にどんなサポートをされるのですか？

子どもたちが教室で習っていることを別室でポルトガル語で説明したり、学校から親に渡される通信をポルトガル語に訳したり、三者懇談で通訳をしたりという活動で、学校と家庭のパイプ役となります。また、幼少時から日本にいる子どもに関しては、日本語は理解できますが、母国語であるポルトガル語が聞き取れても話すことができないときに、日本語でわかりやすく説明します。その一方で、親は日本語が分からないので、家族内でのコミュニケーションは複雑な場合もあります。他にも、県立学校でハートフル支援員としても活動しているので、三者懇談や、進路の説明の通訳もさせてもらったりして、保護者の方から相談などを受けることもあります。

■奥山さんは昨年、里親として子どもの成長を支援されたとして、大津市長感謝状を受け取られたとお聞きしています。里親の活動のきっかけは何だったのですか？

昔、ホームステイの受け入れをしていて、ミシガン州やオーストラリアの学生が毎年家に来ていました。私は子どもが大好きなんです。私の4人の子どもたちが成人した後も、子どもと関わりたいと思っていました。夫と相談して、2016年に里親申請をして登録し、その年の12月に1人目となる子どもを2年間ほど迎え入れ、

その後2人目となる子どもは約4年間迎え入れました。現在は、数日から1～2週間の短期間で迎え入れることがあります。というのも、現在長男家族と同居しているため、子どもたちが過ごすプライベートの部屋がなくなり、長期間の迎え入れが難しくなったんです。

■これまで日本人の子どもを迎え入れて来られたということですが、里親の活動に対する奥山さんの想いをお聞かせください。

私は日本人と外国人、自分の子どもと他人の子ども、といった線引きは全くしません。叱るときも、自分の子どもと同じようにしています。里親として子どもを迎え入れている間も、日本人の子どもという意識はなく、いつも通り、日常生活では、日本語とポルトガル語が飛び交っていました。

■奥山さんは子どもと関わる活動をとても楽しんでいるように思います。その秘訣は何ですか？

私は“かざること”や無理が嫌いなんです。私の活動は全て“子育て”がキーワードで、自分の4人の子育てと同じように楽しみながら活動しています。里子がいる時は、“実子が増えた”気持ちになって、ますます楽しくなります。また、ハートフル支援員の活動で知り合ったブラジル人のお母さんとは、今も仲良くしています。そうした親との繋がりが続くことが一番楽しいです。同じブラジル人として常に何か役に立ちたいと思っています。

■滋賀県での暮らしも25年以上経つとのことですが、奥山さんが考える地域社会のあり方を教えてください。

日本人は自分の思いをはっきり伝えない人が多いように思います。学校から講演依頼があったときは必ず、「自分が“嫌だ”と思うことは、絶対に他人にはいけない」、そして、「嫌なことは“嫌だ”とはっきり言いましょ」と話しています。私の子育てでは、「挨拶と自分の思いをはっきり伝えること」、これが外せないことです。自治会単位のお隣同士の付き合いも、もっとコミュニケーション豊かにできたらいいですね。

ちなみに、滋賀県に来る前、琵琶湖の

▲日本人と結婚したので、奥山という名字がつけましたが、みんなからはニックネームで「ルージ」と呼ばれています。2016年に初めて夫と一緒にブラジルへ帰省しました。ブラジルの故郷の暮らしを見て、私の「賑やかでいつも元気なところ」のルーツを夫に知ってもらいたかったのです(笑)

## ●プロフィール●

日本が好きで、ブラジルで中学生の時に空手を習い、大学で日本語を勉強。さらに、ブラジルで日本の和太鼓グループのコンサートを観に行っただけで和太鼓に興味を持つ。1989年日本に留学。その後日本人と結婚し、1998年に京都から滋賀に移住。地元で伝わる野村太鼓のグループに入り、地元の人たちと演奏活動を続けている。現在は外国人児童生徒指導協力員をしながら、太鼓の指導や里親等、多方面で活動している。



▲舞台上、長男さんと次女さんと一緒に、和太鼓演奏を楽しむ奥山さん。4人のお子さんが小さい頃から、家族みんなで演奏活動を続けられています。

ことはあまり知らず、池くらいの大きさをイメージしていましたが、実際にはほぼ海で驚きました(笑)私の出身地のリオデジャネイロ州は海が近く、湖と山が近い滋賀の風景に親近感がわき、滋賀に来たことで、里帰りできた気分になりました。いつも“住めば琵琶湖”と言っています(笑)できることなら、来生はここで生まれたいです(笑)

■最後に、奥山さんの今後の抱負をお願いします。

毎日、楽しく生きる！私は人とつながること・人と接することが好きなんです。明日はわからないので、今を最高に楽しむ。今はスポーツセンターのフロントの仕事と学校での支援、そして月6回の和太鼓指導と練習イベントでの演奏とフル回転していますが、この毎日忙しい状況がとても楽しいですね。